

# ライセンス認証(アクティベーション) 実装ソリューション

- ◆ 認証 Web サービス
- ◆ 認証管理アプリケーション
- ◆ 配布アプリケーション用認証ライブラリ(DLL)

**認証レスキュー!.NET**

## クイック体験ガイド

(3.0.0)



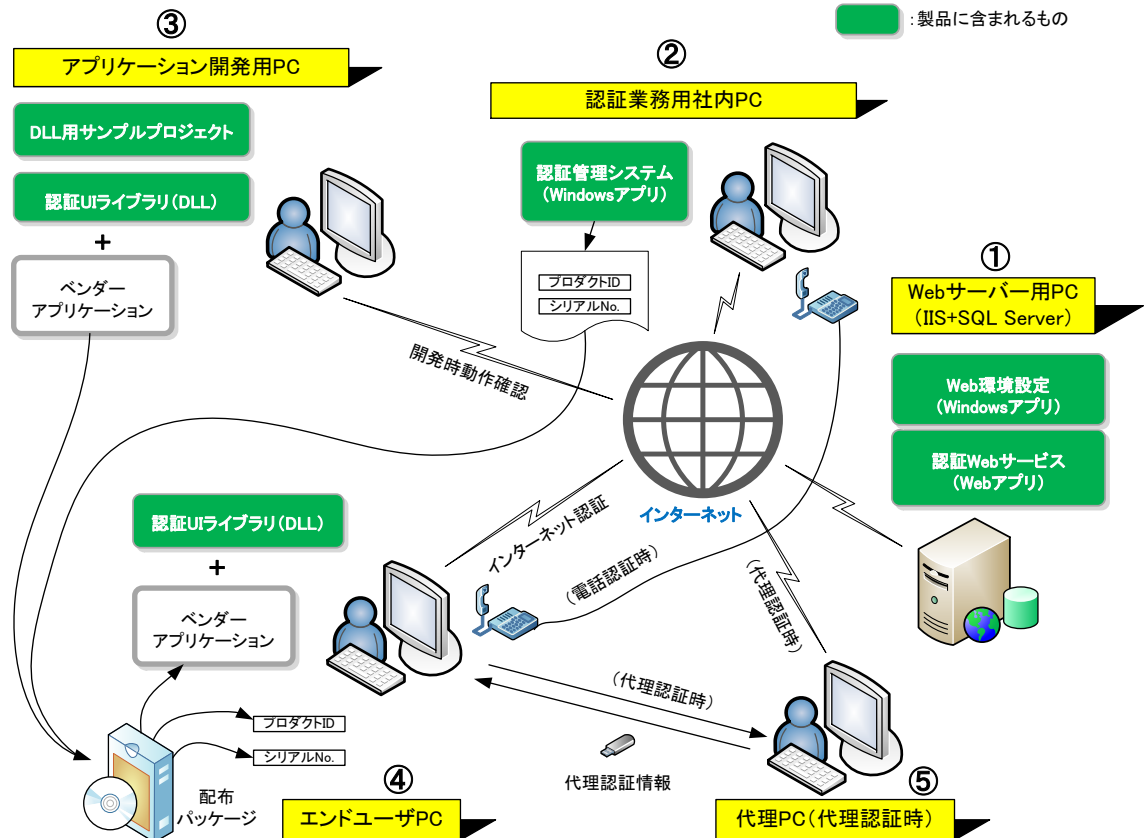
**NEWTONE**  
株式会社ニユートン

●概要.....	3
●運用イメージ.....	4
●認証レスキュー！で利用できるライセンスの種類.....	5
●インストールされる内容.....	5
●動作環境.....	6
●インストール.....	7
1.「Web サーバー用 PC」へのインストール.....	7
2.データベースのインストール.....	8
3.IIS 設定と Web サービスのインストール.....	10
4.「認証業務用社内 PC」へのインストール.....	12
5.「アプリケーション開発用 PC」へのインストール.....	13
6.インストールの終了後.....	14
●Web サーバー用 PC と認証業務用社内 PC.....	15
1.Web サーバー用 PC の「環境設定」処理.....	15
2.Web サービス/確認パスワード.....	16
3.データベースの指定.....	16
4.「データベース接続確認」ボタン.....	16
5.データテーブル新規作成.....	17
6.「テーブルを新規作成」ボタン.....	17
7.「登録」ボタン.....	18
8.保存ボタン.....	19
●認証業務用社内 PC の「認証管理システム」.....	20
1.「認証管理システム」のメニュー.....	20
2.メニュー▶「環境設定」ボタン.....	20
3.環境設定▶Web サービス/URL.....	21
4.環境設定▶Web サービス/確認パスワード.....	21
5.環境設定▶「Web サービス接続確認」ボタン.....	22
6.環境設定▶「登録」ボタン.....	22
7.メニュー▶「認証状況」ボタン.....	22
8.認証状況▶「検索実行」ボタン.....	23
9.認証状況▶「終了」.....	25
10.メニュー▶「終了」ボタン.....	25
●認証 UI ライブラリのサンプルプロジェクトの実行.....	26
1.DLL 及びサンプルフォルダのツリー図.....	27
2.サンプルプロジェクトの実行.....	28
3.ライセンス管理のメニュー.....	29
4.「認証状況オンライン表示」.....	29
5.「認証登録/インターネット」.....	30
6.「認証解除/インターネット」.....	31
7.「フローティングライセンス使用開始」.....	32
8.「フローティングライセンス使用終了」.....	33
●サンプルプロジェクトと Form のデザインとコード.....	35
1.Form1.....	36
2.Form2.....	37

**●概要**

このガイドは、「認証レスキュー！.NET（以降、認証レスキュー！）」を素早く体験するための手順書です。

●運用イメージ



主な運用手順は次の通りです。具体的な手順は、後述します。(丸付き数字は上図の各PCです。)

1. 認証レスキュー！のインストールを行う

①Webサーバー用PC、②認証業務用社内PC、③アプリケーション開発用PCにそれぞれインストールを行います。

2. インストールしたアプリケーションを使用して必要な各設定を行う

①Webサーバー用PCと②認証業務用社内PCで設定します。

3. インストールしたアプリケーションを使用して必要な各処理を行う

パッケージソフト出荷のための認証キー(プロダクトIDやシリアルNo.など)を作成し、プロダクトIDとシリアルNo.ラベル印刷を行います。②認証業務用社内PCが対象です。

4. インストールした認証UIライブラリ(DLL)を利用し貴社アプリケーションに認証機能を実装する

③アプリケーション開発用PCが対象です。

5. 貴社アプリケーションをお客様(エンドユーザ)へ配布する

④エンドユーザPCが対象です。上記4で完成した貴社アプリケーションと上記3で発行したプロダクトIDとシリアルNo.をお客様(エンドユーザ)へ配布します。

6. お客様(エンドユーザ)がライセンス認証を実行する

④エンドユーザPCまたは⑤(エンドユーザの)代理PCで、お客様(エンドユーザ)が貴社アプリケーションの認証UIを使用してライセンス認証を行い、その内容が貴社Webサーバーなどの認証レスキュー！用のデータベースに記録されます。

その内容は、②認証業務用社内PCの「認証状況」処理などで確認できます。

●認証レスキュー！で利用できるライセンスの種類

認証レスキュー！では、次表のライセンスを利用できます。

ライセンス形態	ライセンス種類	ライセンス認証方法			ライセンス期限	
		インターネット認証	代理(オフライン)認証	電話認証	無期限	有効期限
PC 固定型	無期限ライセンス	○	○	○	○	×
	有効期限ライセンス	○	○	×	×	○
フローティング型	フローティングライセンス	○	×	×	○	○

「ライセンス形態」について

・PC 固定型

エンドユーザの PC1 台ごとに登録が必要なライセンスです。エンドユーザは、登録したライセンスを解除することで他の PC に再度、登録することができます。また、5 ライセンスや 10 ライセンスといったマルチライセンスの登録も可能です。

・フローティング型

エンドユーザで貴社のアプリケーションを同時に使用できる最大の PC 台数を設定するライセンスです。エンドユーザは、最大 PC 台数以内であればどの PC でも貴社のアプリケーションを使用できます。

このライセンスは、エンドユーザの PC が常時インターネットに接続できる環境が必要ですが、世界中のどこにある PC でも、同じフローティングライセンス内での利用が可能です。

●インストールされる内容

Web サーバー用 PC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証 Web サービス (Web アプリケーション)</li> <li>・Web 環境設定 (Windows アプリケーション)</li> <li>・SQL Server 2014 Express + Management Studio</li> </ul>	ユーザーズガイドなど
認証業務用 PC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証管理システム (Windows アプリケーション)</li> </ul>	
アプリケーション開発用 PC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証 UI ライブラリ (DLL)</li> <li>・サンプルプロジェクト (既定 UI 系サンプル、カスタム UI 系サンプル、ASP.NET 系サンプル)</li> <li>.NET Framework 4.5 (Visual Basic 2015 用、C# 2015 用)</li> <li>.NET6 (Visual Basic 2022 用、C# 2022 用)</li> </ul>	

●動作環境

・「Web サーバー用 PC」へのインストールが対応している OS  
 日本語 Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012  
 日本語 Microsoft Windows 11(Home は除く)/10(Home は除く)/8.1(Pro 以上)/8(Pro 以上)  
 ※上記 Windows OS 上の対応暦:グレゴリオ暦(西暦)のみ

・「Web サーバー用 PC」へのインストールが対応している IIS  
 IIS 10.0/8.5/8.0

・「認証業務用社内 PC」へのインストールによる「認証管理システム」が対応している OS  
 日本語 Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012  
 日本語 Microsoft Windows 11/10/8.1/8  
 ※上記 Windows OS 上の対応暦:グレゴリオ暦(西暦)のみ

・「アプリケーション開発用 PC」へのインストールによる「認証 UI ライブラリ(DLL)」が対応している OS  
 Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012  
 Microsoft Windows 11/10/8.1/8

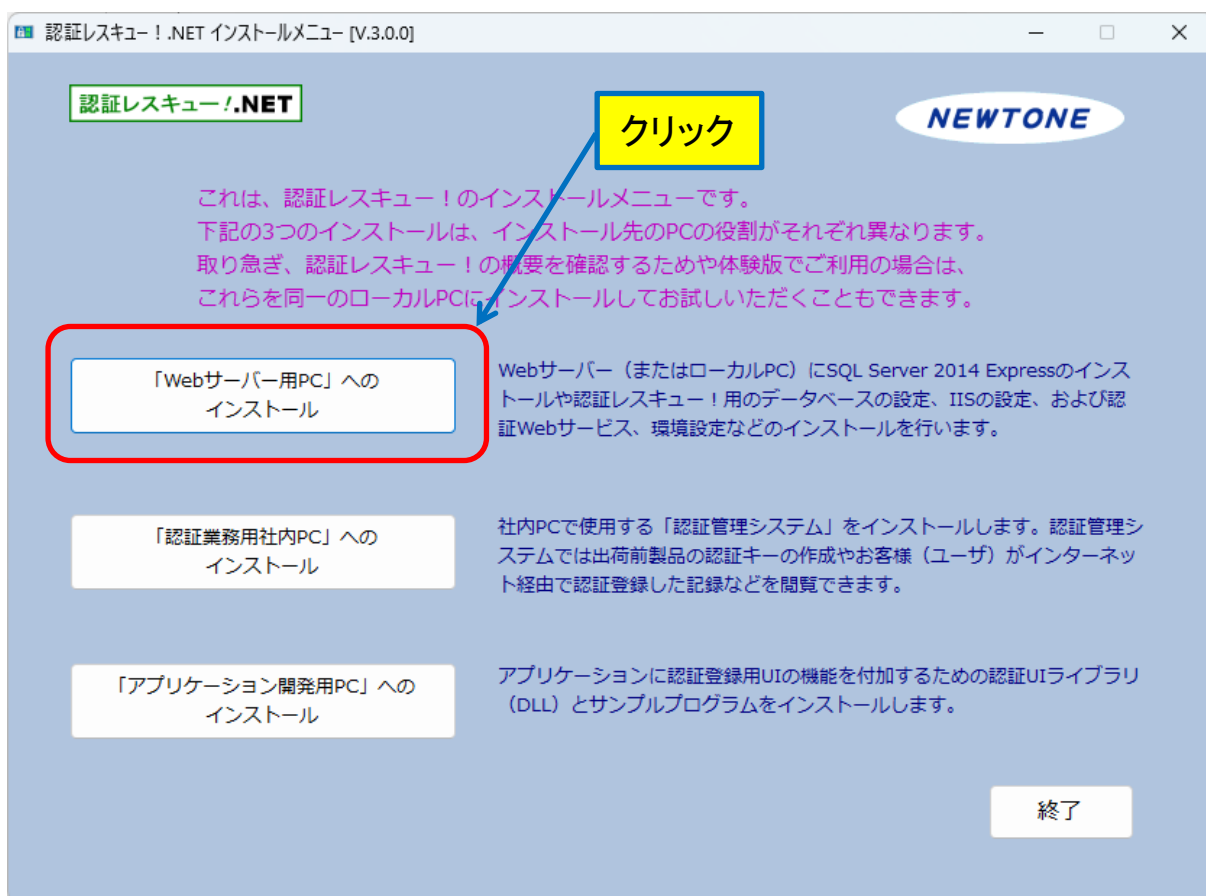
[DLL による OS および暦対応表]

DLL	【既定 UI 系、カスタム UI 系 DLL】 Newtone.NR.FW45.dll / Newtone.NR.NET6.dll	【ASP.NET 系 DLL】 Newtone.NR.ASPNET.dll
Windows 対応 OS	日本語版および英語版推奨	日本語版のみ
対応 OS 上の対応暦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ChineseLunisolarCalendar/中国の太陰太陽暦</li> <li>・GregorianCalendar/グレゴリオ暦(西暦)</li> <li>・HebrewCalendar/ヘブライ暦</li> <li>・HijriCalendar/回教暦</li> <li>・JapaneseCalendar/和暦</li> <li>・JapaneseLunisolarCalendar/日本の太陰太陽暦</li> <li>・JulianCalendar/ユリウス暦</li> <li>・KoreanCalendar/韓国暦</li> <li>・KoreanLunisolarCalendar/韓国の太陰太陽暦</li> <li>・PersianCalendar/ペルシャ暦</li> <li>・TaiwanCalendar/台湾暦</li> <li>・TaiwanLunisolarCalendar/台湾の太陰太陽暦</li> <li>・ThaiBuddhistCalendar/タイ仏暦</li> <li>・UmAlQuraCalendar/ウムアルクラ暦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GregorianCalendar/グレゴリオ暦(西暦)のみ</li> </ul>

・認証 UI ライブラリ(DLL)を利用するための開発環境(すべて日本語版のみ)  
 Visual Studio 2022/2019/2017/2015  
 ・認証 UI ライブラリ(DLL)が動作する対応 Framework  
 ・.NET Framework 4.8 / 4.7.2 / 4.7.1 / 4.7 / 4.6.2 / 4.6.1 / 4.6 / 4.5.2 / 4.5.1 / 4.5  
 ・.NET 8/7/6.0

## ●インストール

(パッケージの場合は) ディスク内のルートまたは(ダウンロードなどの場合は) 解凍したフォルダにある「**NRInstallMenu.exe**」を実行してください。次のような画面が表示されます。



これは、認証レスキュー！のインストールメニューです。  
3つのインストールボタンがあり、インストール先のPCの役割がそれぞれ異なります。  
取り急ぎ、認証レスキュー！の概要を確認するためや体験版でご利用の場合は、これらを同一のローカルPCにインストールしてお試しいただくこともできます。

### 1. 「Webサーバー用PC」へのインストール

Webサーバー(またはローカルPC)にSQL Server 2014 Expressのインストールや認証レスキュー！用のデータベースの設定、IISの設定、および認証Webサービス、環境設定などのインストールを行います。

このインストールを選択するとさらに次のWebインストールの画面が表示されます。



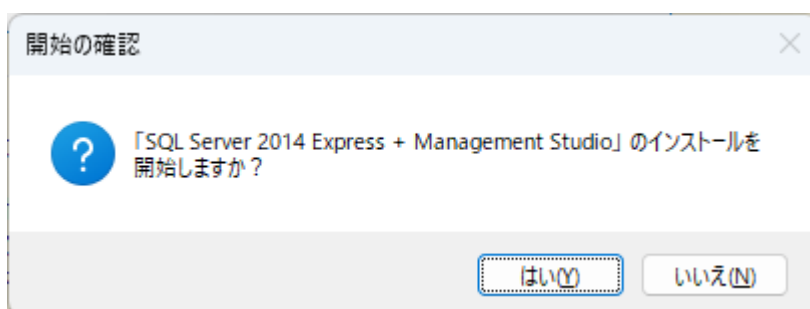


ここでは、「データベースのインストール」と「IIS 設定と Web サービスのインストール」を行います。

## 2. データベースのインストール

認証レスキュー！用のデータベース（SQL Server Express 日本語版）のインストールを行います。また、認証レスキュー！用のインスタンスと（データを除く）データベースも作成します。既に同じバージョンの SQL Server Express がインストールされている場合は、認証レスキュー！に必要な設定だけを行います。

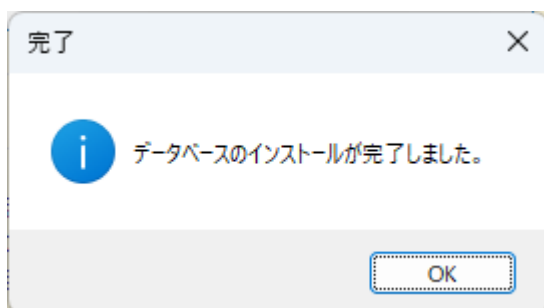
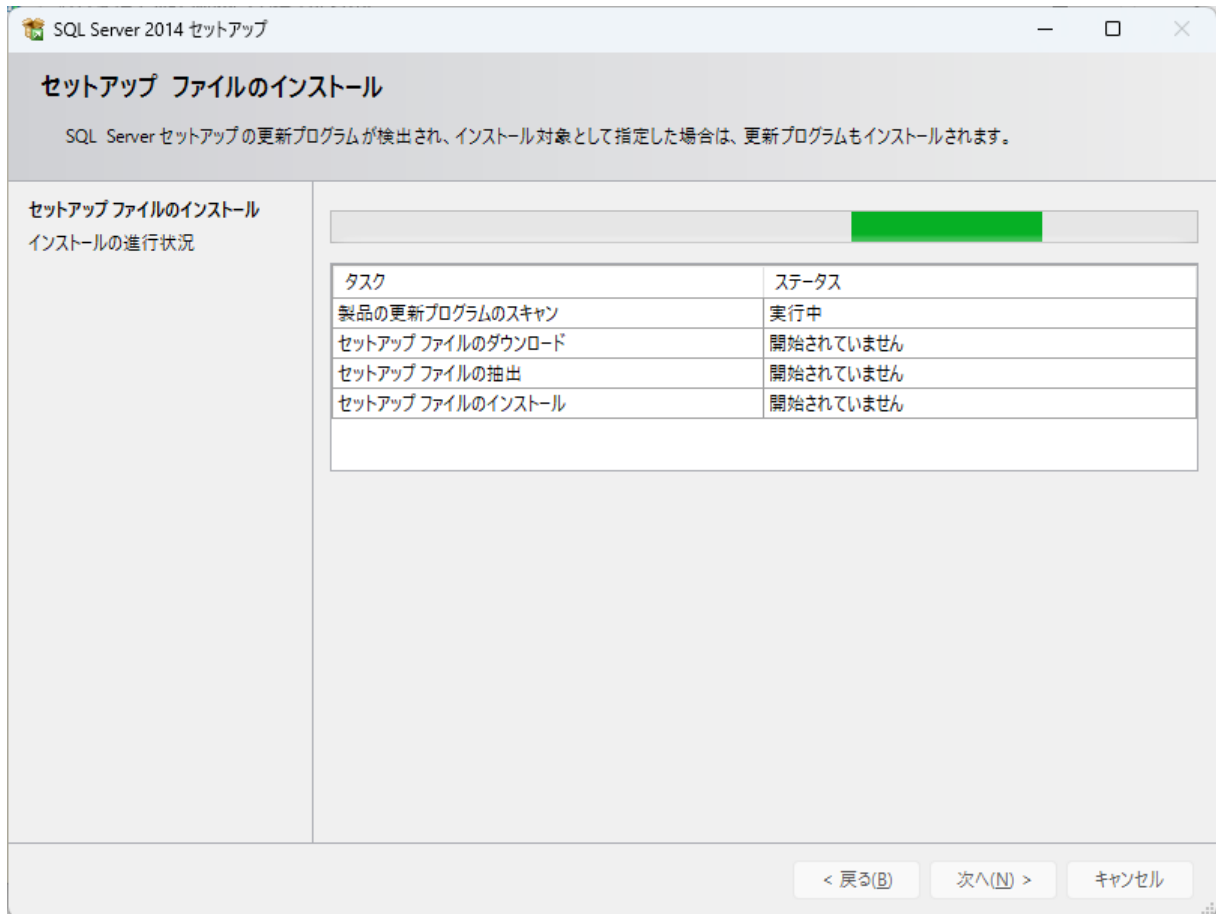
「SQL Server 2014 Express(32bit)+ Management Studio のインストール」ボタンを押します。



「はい」をクリックします。



インストール中の画面例



完了したら、OK をクリックします。

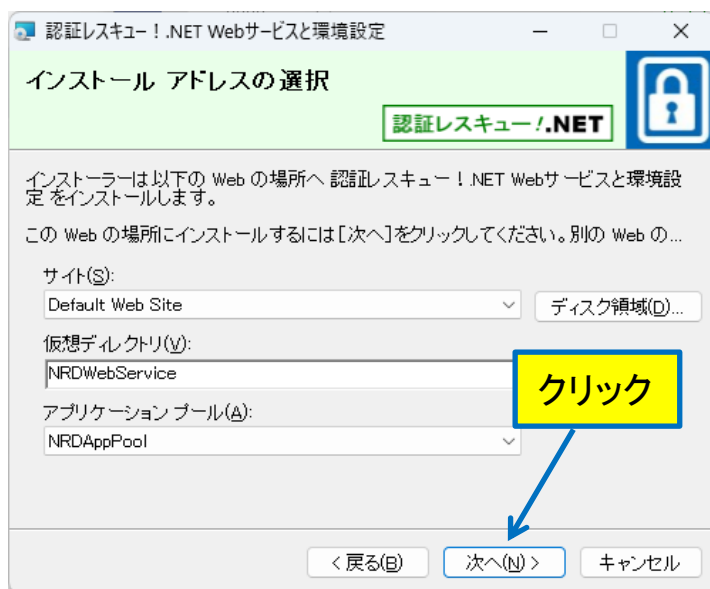
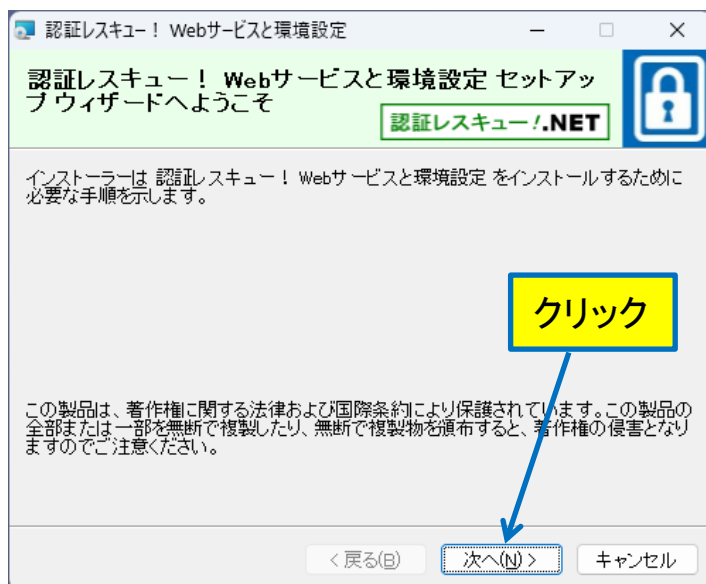
### 3.IIS 設定と Web サービスのインストール



認証 Web サービスのインストールを行います。Internet Information Services (IIS) が有効になっている必要がありますが、通常は、認証レスキュー！のインストーラが自動的に IIS を有効にして、IIS の不足している機能も自動的にインストールします。

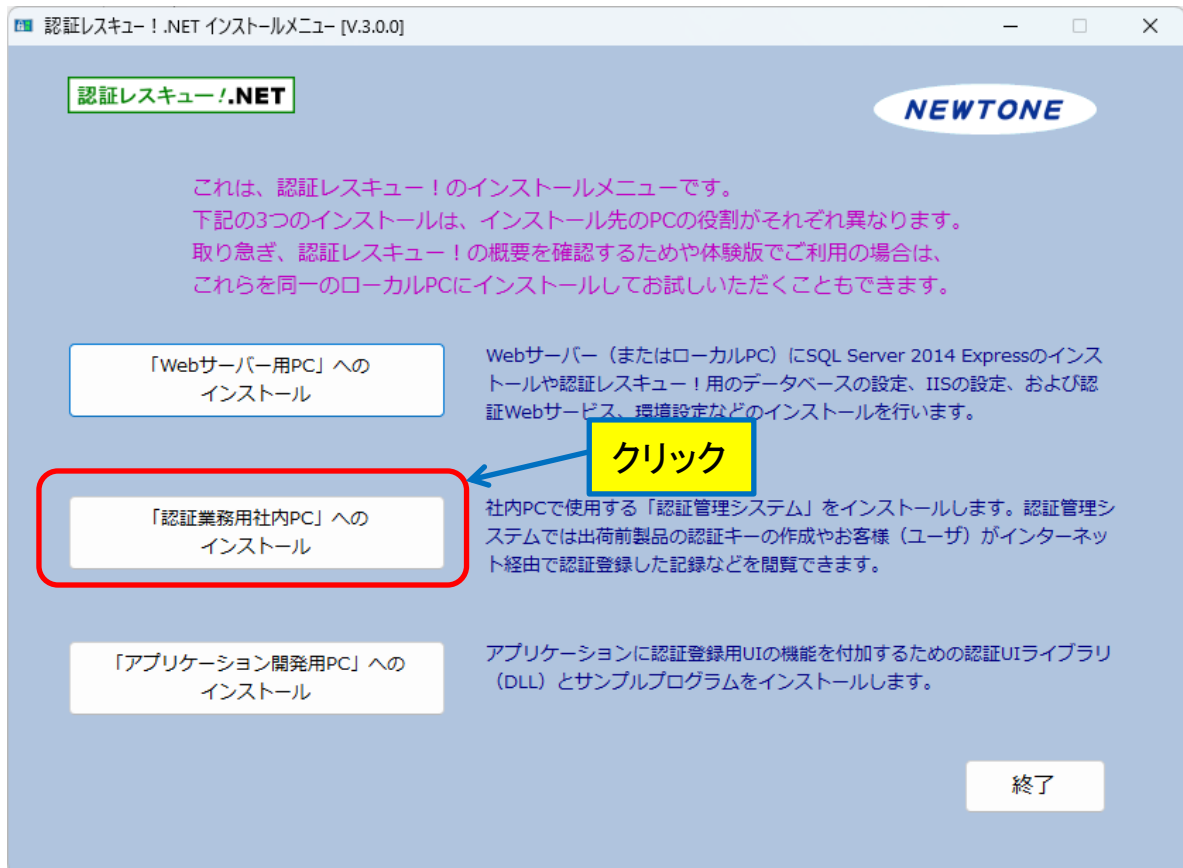
「IIS 設定と Web サービスのインストール」のフレーム内で有効になっているボタンを選択するとインストールが始まります。選択できるボタンが無い場合は、現在の OS が対応外の可能性がありますのでご確認ください。

インストールを開始して IIS の設定が済むと確認画面の表示後、次のような「Web サービスと環境設定」のインストーラが起動されます。

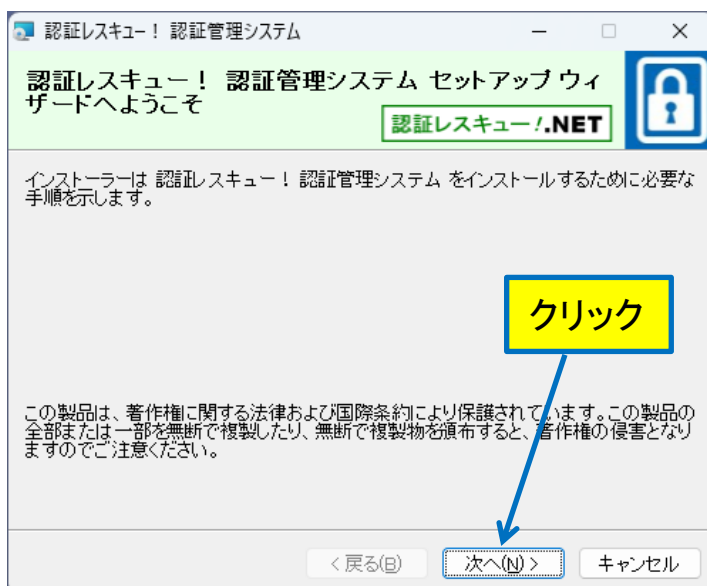


この画面では、サイト、仮想ディレクトリ、アプリケーションプールを指定しますが、通常はデフォルト(初期設定)のまま「次へ」ボタンを押します。以降は画面の指示に従ってください。

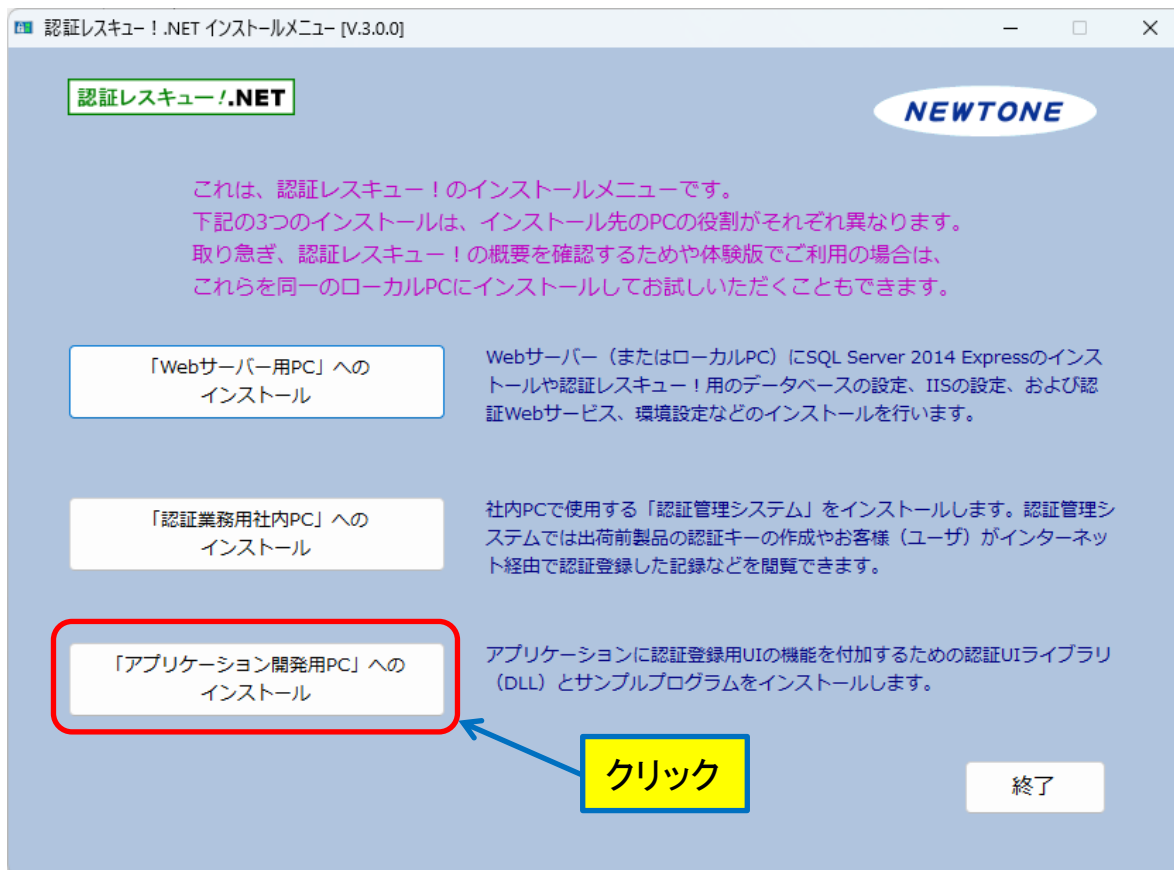
#### 4. 「認証業務用社内 PC」 へのインストール



社内 PC で使用する「認証管理システム」をインストールします。認証管理システムでは出荷前製品の認証キーの作成やお客様（エンドユーザ）がインターネット経由で認証登録した記録などを閲覧できます。



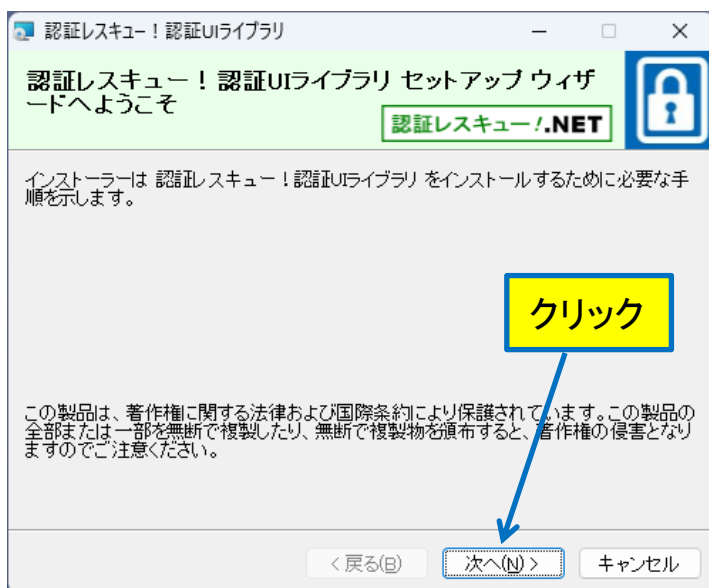
インストールするには画面の指示に従ってください。



## 5. 「アプリケーション開発用 PC」 へのインストール

アプリケーションに認証登録用 UI の機能を付加するための認証 UI ライブラリ(DLL)とサンプルプログラムをインストールします。

「アプリケーション開発用 PC」へのインストール ボタンをクリックします。



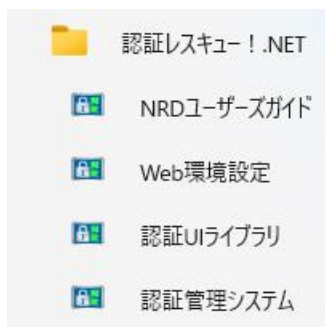
インストールするには画面の指示に従ってください。

## 6.インストールの終了後

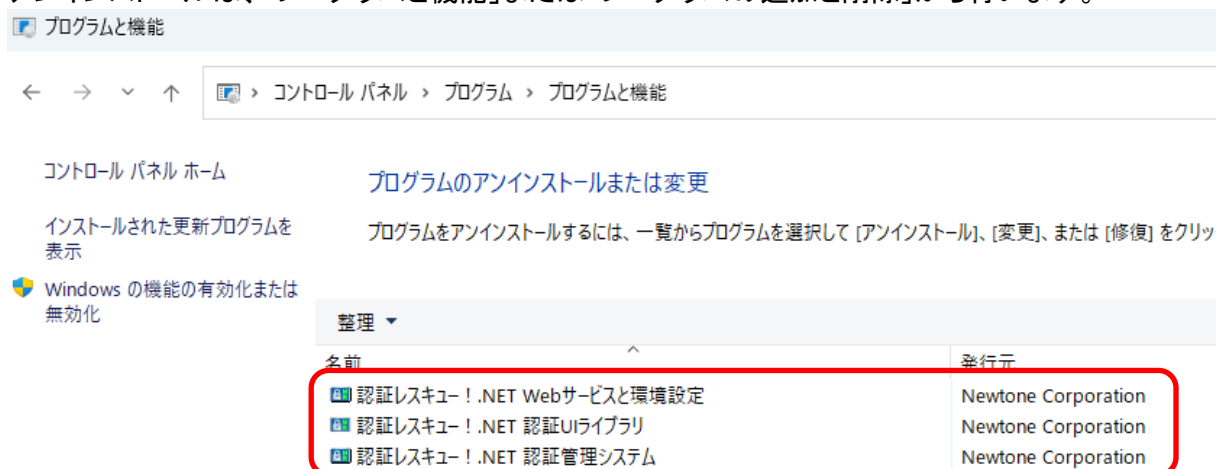
すべてのセットアップが終了すると、デスクトップに「認証レスキュー！.NET Web 環境設定」へのショートカット、「認証レスキュー！.NET 認証管理システム」へのショートカット、「認証レスキュー！.NET 認証 UI ライブラリ」フォルダへのショートカット用アイコンがそれぞれ次のように作成されます。



また、プログラムメニュー(すべてのアプリ)には次のように「認証レスキュー！」が登録されます。



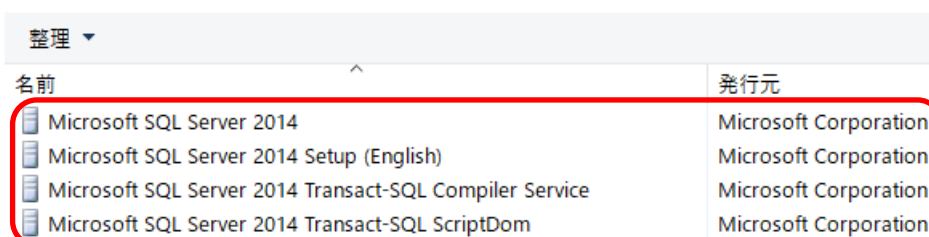
アンインストールは、「プログラムと機能」または「プログラムの追加と削除」から行います。



SQL Server Express 2014 をアンインストールする場合は、「プログラムと機能」または「プログラムの追加と削除」で次の項目をアンインストールします。

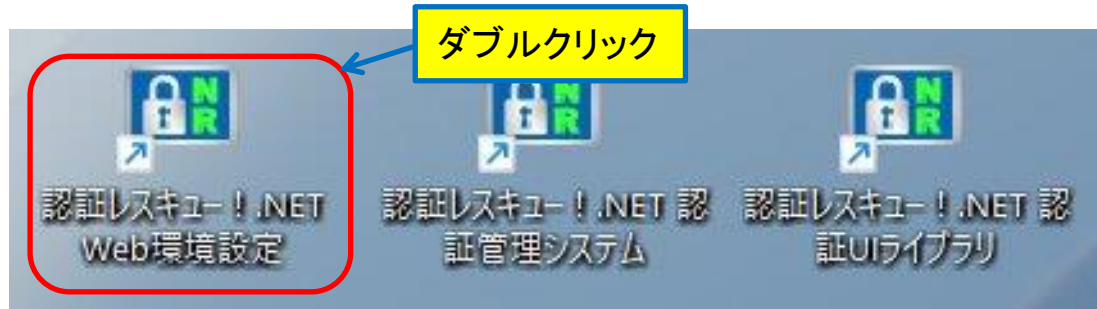
### プログラムのアンインストールまたは変更

プログラムをアンインストールするには、一覧からプログラムを選択して [アンインストール]、[変更]、または [修復]



## ●Web サーバー用 PC と認証業務用社内 PC

インストールが終了したら、認証レスキュー！を利用する前の各種設定が必要です。



### 1.Web サーバー用 PC の「環境設定」処理

デスクトップ上の「認証レスキュー！.NET We 環境設定」へのショートカットを起動すると次の画面が表示されます。

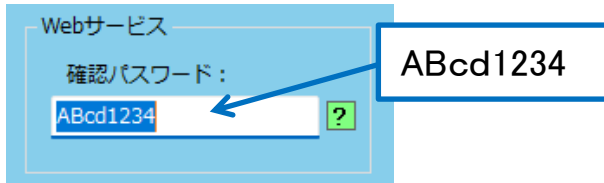
この実行ファイルは、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:¥Program Files¥Newtone¥NRD¥NRDWeb¥WebAdmin.exe、

<64bitOS の場合> C:¥Program Files (x86)¥Newtone¥NRD¥NRDWeb¥WebAdmin.exe です。



## 2. Web サービス/確認パスワード

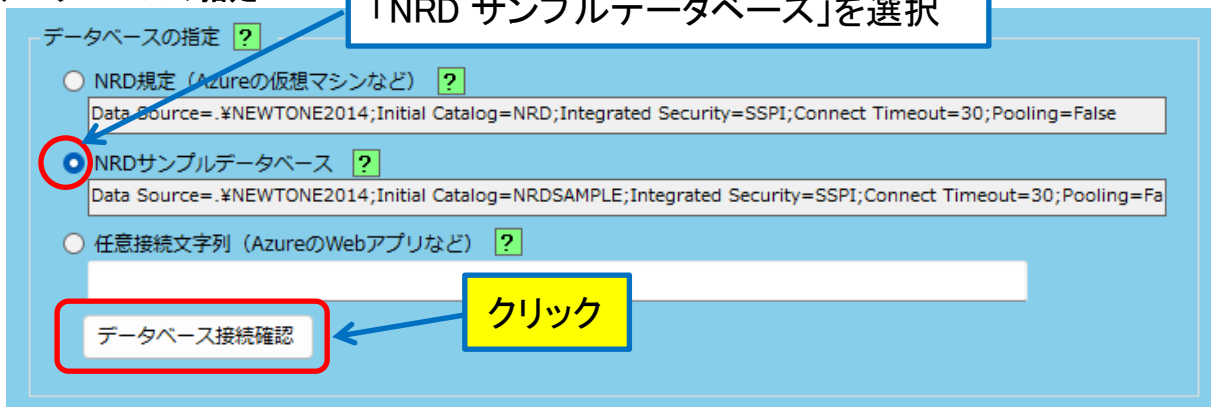


Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。  
ここでは、次の 8 桁のパスワードを入力してください。

**ABcd1234** (大小文字識別あり)

このパスワードは、後述の認証UIライブラリ(DLL)のサンプルプロジェクトに利用されているパスワードと同じで、サンプルプロジェクトを速やかに実行できます。

## 3. データベースの指定

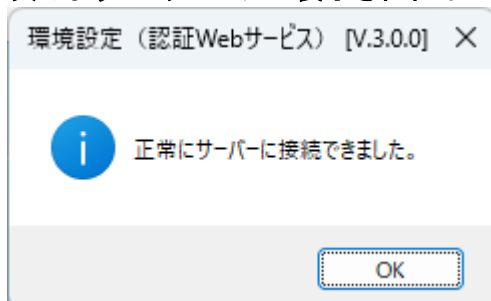


認証レスキュー！で使用するデータベースを指定します。選択肢は3種類ですが、ここでは、**NRD サンプルデータベース**を選択します。

## 4. 「データベース接続確認」ボタン

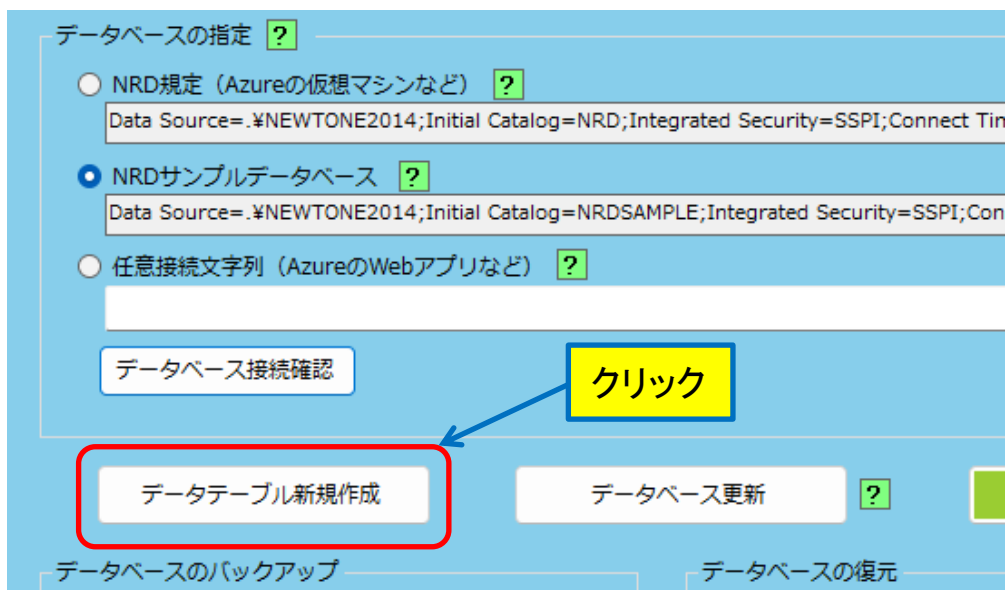
上記の設定をしたら「データベース接続確認」ボタンを押して、データベースに接続できることを確認してください。

次のようにメッセージが表示されれば OK です。

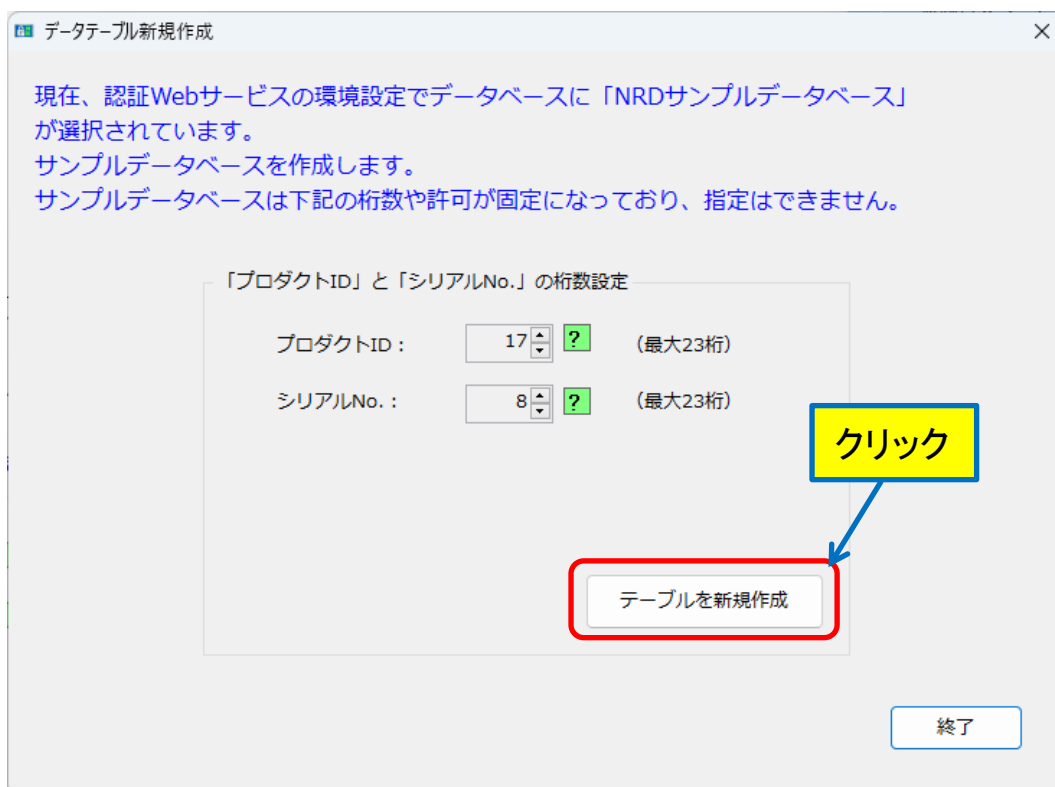


## 5. データテーブル新規作成

次に、データベースのテーブルの新規作成をします。  
環境設定で「データテーブル新規作成」ボタンを押します。



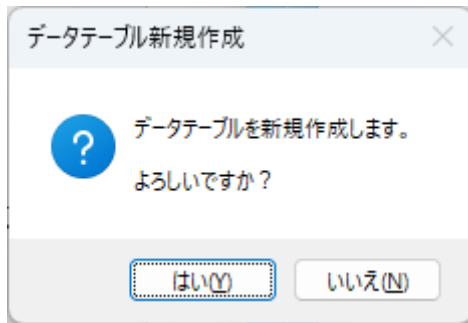
先に「データベースの指定」で「NRD サンプルデータベース」を選択したので、次の画面となります。



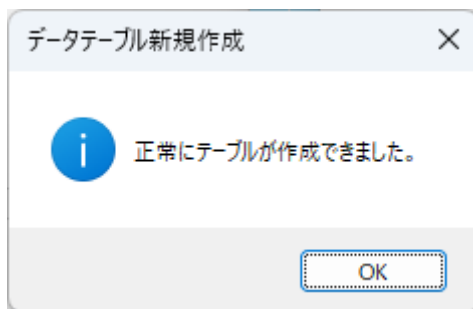
## 6. 「テーブルを新規作成」ボタン

ここで、「テーブルを新規作成」ボタンをしてデータベース内にサンプルデータが入ったテーブルを作成します。

次のようなメッセージが表示されます。

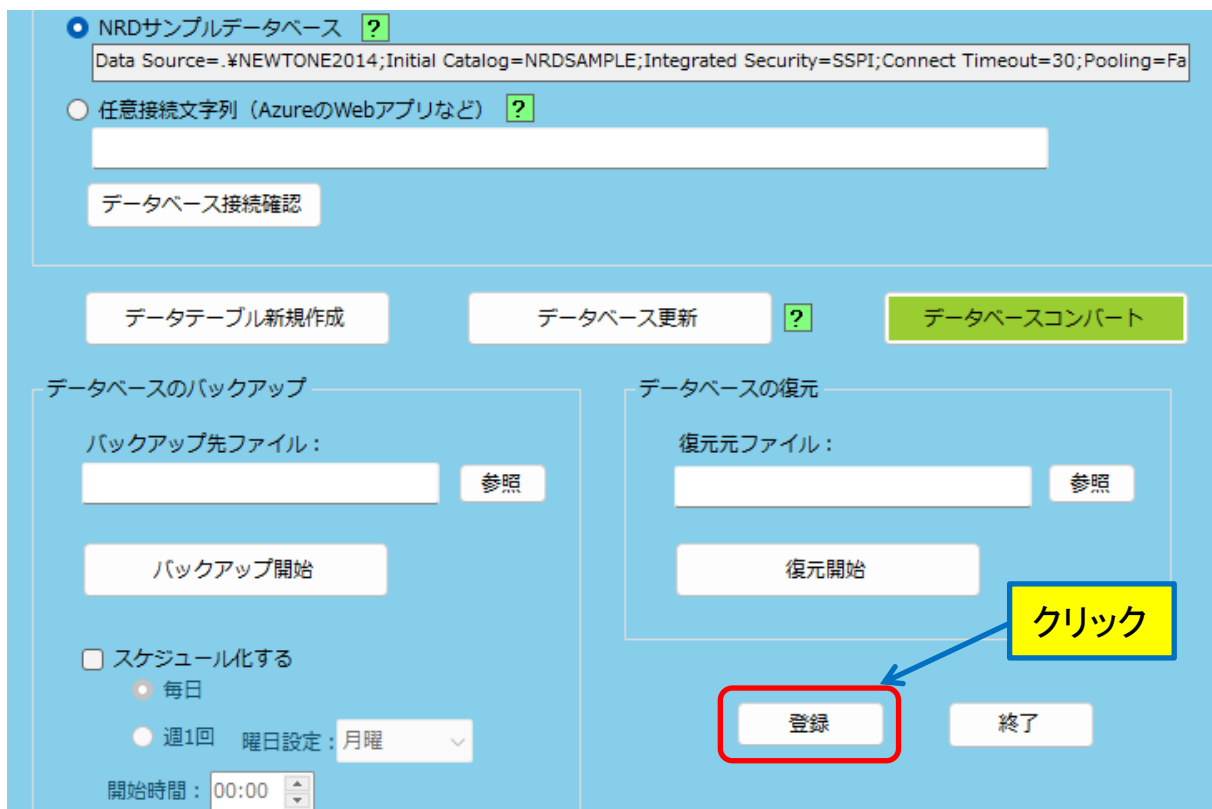


「はい」ボタンを押します。

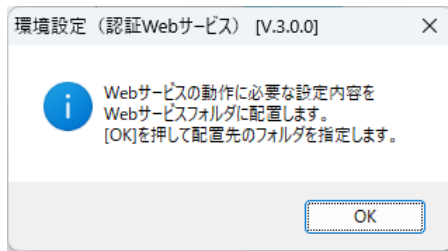


## 7. 「登録」ボタン

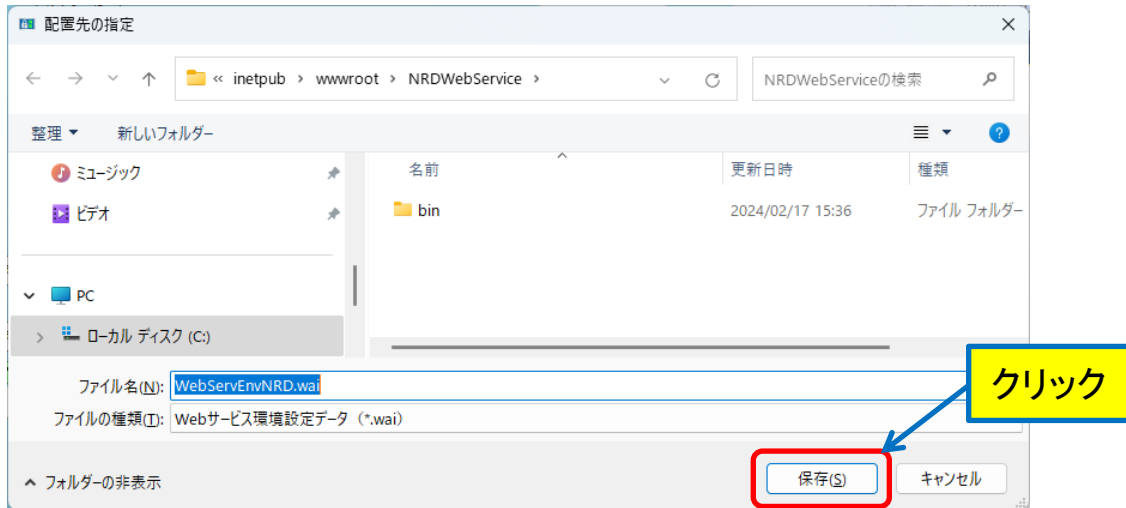
環境設定が終了したら「登録」ボタンを押します。



次のようなメッセージが表示されます。



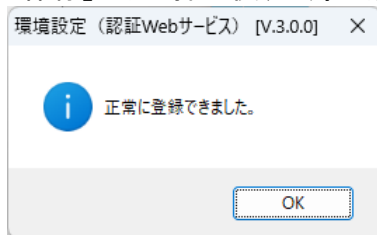
ここで、「OK」ボタンを押すと、次のような「配置先の指定」ダイアログが表示されます。



## 8.保存ボタン

通常は、自動的に(例:C:\inetpub\wwwroot\NRDWebService などの)適切な出力先が表示されますので、確認してそのまま「保存」ボタンを押します。

「保存」ボタン押下後、登録に成功すると次のメッセージが表示されます。



## ● 認証業務用社内 PC の「認証管理システム」

ダブルクリック



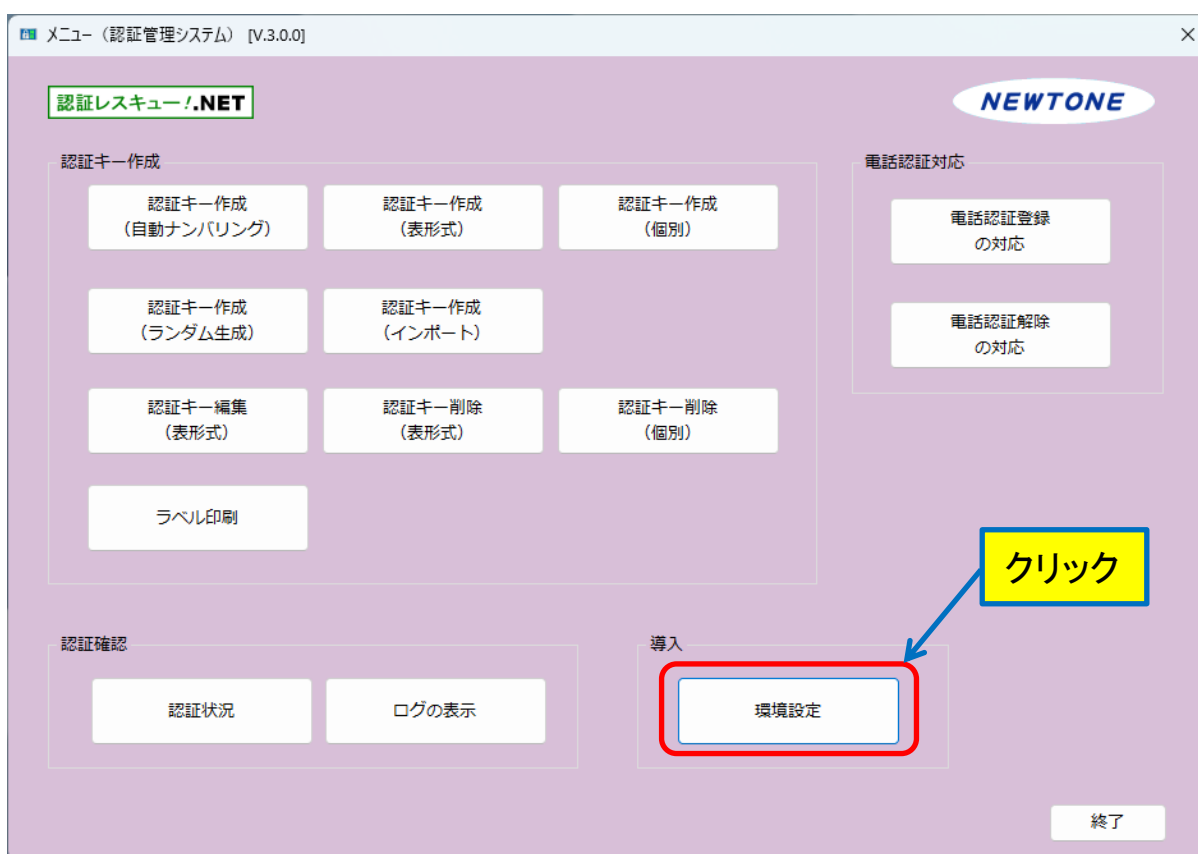
デスクトップ上の「認証レスキュー！.NET 認証管理システム」へのショートカットを起動すると次の画面が表示されます。

この実行ファイルは、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NRD\NRDInsideSystem\InsideSystem.exe、

<64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NRD\NRDInsideSystem\InsideSystem.exe  
です。

## 1. 「認証管理システム」のメニュー



「認証管理システム」のメニューが表示されますが、最初に行うのは「環境設定」処理です。初期状態では他の処理は選択できません。

## 2. メニュー▶「環境設定」ボタン

「環境設定」ボタンをクリックします。

「環境設定」ボタンを押すと次のような画面が表示されます。

各項目について説明します。

### 3.環境設定▶Web サービス/URL

認証に関するシステムを Web サービスとして提供する Web サーバーの URL を指定します。  
以下にいくつか例を示します。

ここでは、自 PC のローカルホストの Web サーバー (IIS) にアクセスする場合として、次の文字列を入力してください。

`http://localhost/NRDWebService/Service.asmx`

### 4.環境設定▶Web サービス/確認パスワード

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。

ここでは、次の 8 桁のパスワードを入力してください。

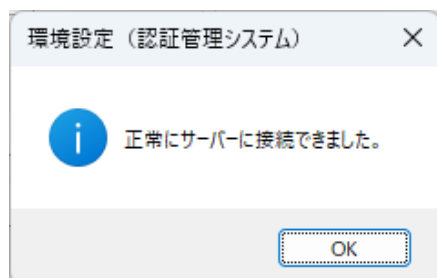
**ABcd1234** (大小文字識別あり)

このパスワードは、後述の認証UIライブラリ (DLL) のサンプルプロジェクトに利用されているパスワードと同じで、サンプルプロジェクトを速やかに実行できます。

### 5.環境設定▶「Web サービス接続確認」ボタン

ここまでの設定をしたら、「Web サービス接続確認」ボタンを押して、Web サービスに接続できることを確認してください。

正常に接続できると、次のメッセージが表示されます。

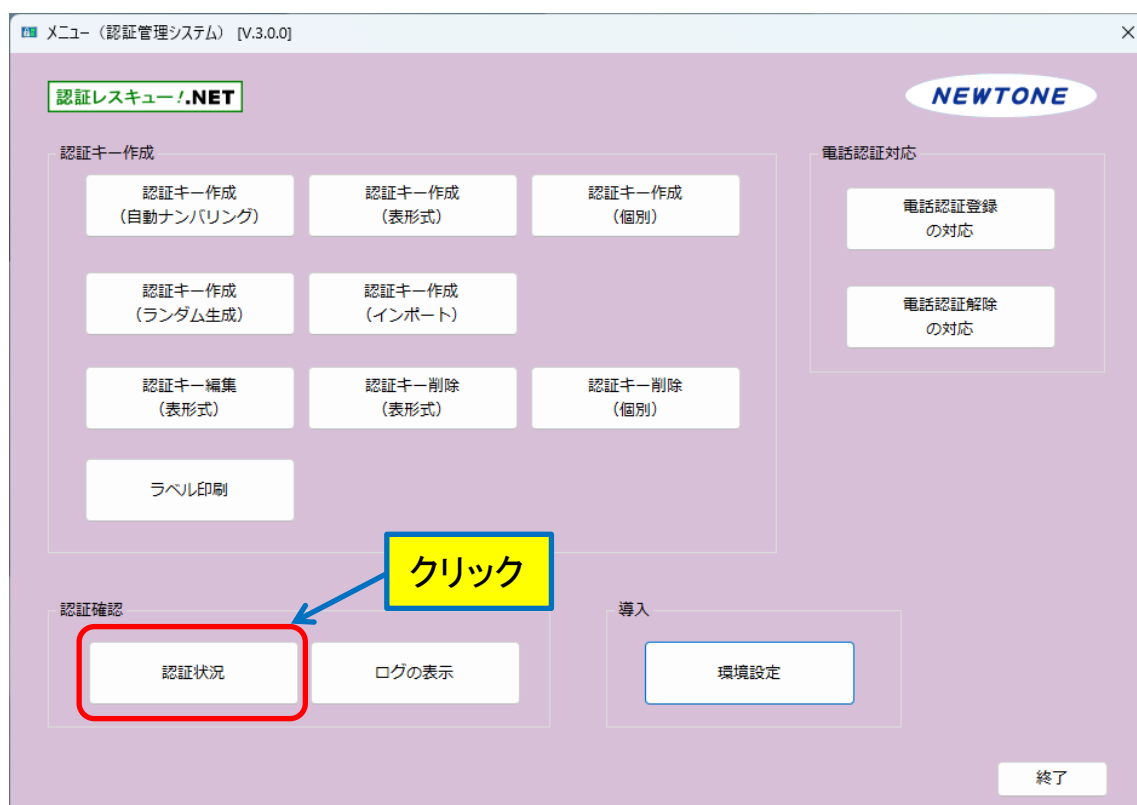


### 6.環境設定▶「登録」ボタン

ここまでの項目の入力が終わったら、「登録」ボタンを押して設定を保存します。認証管理システムのメニューに戻ります。

### 7.メニュー▶「認証状況」ボタン

それではここで、サンプルデータを見てみましょう。認証管理システムメニューの「認証状況」ボタンをクリックします。





## 8. 認証状況▶「検索実行」ボタン

次の画面が表示されますので、「検索実行」ボタンを押します。

次のように検索結果が表示されます。

認証状況

パッケージ出荷前に作成した認証キー情報と、現在のユーザーの認証登録状況を表示します。

検索

プロダクトID:  (未入力: 指定なし) シリアルNo.: 先頭指定文字列:  (未入力: 指定なし)

認証作成状況日付:  指定する 2024/04/05 ~ 2024/04/05  フローティングライセンスのみ

認証登録状況日付:  指定する 2024/04/05 ~ 2024/04/05

認証作成状況 (認証キーテーブル一覧) **該当件数: 10行**

	プロダクトID	シリアルNo.	フローティングライセンス	ライセンス数	プラス許可数	有効期限利用	有効期限 (例: 2024/04/05)	作成日時	リンク
▶ 1	00001-00001-00001	A0000001	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0	<input checked="" type="checkbox"/>		2024/02/24 15:3...	
2	00001-00001-00001	A0000002	<input type="checkbox"/>	5	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/24 15:3...	
3	00001-00001-00001	A0000003	<input type="checkbox"/>	1	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/24 15:3...	
4	00001-00001-00001	A0000004	<input type="checkbox"/>	1	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/24 15:3...	

認証登録状況 (認証データテーブル一覧) **該当件数: 3行**

	プロダクトID	シリアルNo.	認証ID	ライセンスキー	作成日時	PC名	MACアドレス1	MACアドレス2	M
1	00001-00001-00001	A0000001	50533-21818	606126473573993	2024/02/24 15:42:00	PCName1	E840F260C430		
2	00001-00001-00001	A0000002	17958-26503	660128081831738	2024/02/24 15:42:00	PCName2	E840F260C430		
3	00001-00001-00001	A0000003	78359-54685	082259796100439	2024/02/24 15:42:00	PCName3	E840F260C430		

※「IPアドレス」IPv4で「127.0.0.1」、IPv6で「::1」はlocalhost

この画面の、上の表が作成したライセンスの認証キーテーブル、下の表が認証済みの認証データテーブルです。認証キーは、本来は認証管理システムの各種キー作成処理で作成しますが、ここでは、あらかじめ作成してあるサンプルデータの結果を見ていることとなります。

認証レスキュー！では、プロダクトIDとシリアルNo.の組み合わせでユニークなキーとしています。同じプロダクトIDでもシリアルNo.が異なれば別のキーとなり、それぞれにライセンス数を設定できます。

認証データテーブルでは、現在3行のライセンスがエンドユーザーにより既に使用されていることがわかります。

認証データテーブルは、使用されている1ライセンスについて1行作成されます。それに対して、認証キーテーブルは、作成されたキーがライセンス数が5(マルチライセンス)であっても1行しか作成されません。

このクイック体験ガイドでは、認証キーの作成は省略してサンプルデータを使用します。認証キーの作成の詳細は、ユーザーズガイドをご覧ください。

先の認証状況の画面で、認証キー(テーブル)内の縦スクロールバーを操作して最下行まで表示してください。

認証登録状況日付:  指定する 2024/04/05 ~ 2024/04/05 検索実行

**スクロールして最下行まで表示**

認証作成状況 (認証キーテーブル一覧) 該当件数: 10行

	プロダクトID	シリアルNo.	フローティングライセンス	ライセンス数	プラス許可数	有効期限利用	有効期限 (例: 2024/04/05)	作成日時	リンク
8	00004-00004-00004	4444dddd	<input checked="" type="checkbox"/>	10	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/27 18:3...	
9	00005-00005-00005	5555eeee	<input checked="" type="checkbox"/>	10	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/28 18:3...	
10	12345-12345-12345	1234ABCD	<input type="checkbox"/>	1	0	<input type="checkbox"/>		2024/02/29 18:1...	

認証登録状況 (認証データテーブル一覧) 該当件数: 3行

	プロダクトID	シリアルNo.	認証ID	ライセンスキー	作成日時	PC名	MACアドレス1	MACアドレス2	M
▶ 1	00001-00001-00001	A0000001	50533-21818	606126473573993	2024/02/24 15:42:00	PCName1	E840F260C430		

最下行の 10 行目に、プロダクト ID: 12345-12345-12345、シリアル No.: 1234ABCD があります。この認証キーはまだ認証登録がされていません。この認証キーは後述で行う、認証 UI ライブラリ (DLL) を利用したサンプルプロジェクトの実行で PC 固定型の「無期限ライセンス」として認証登録をします。

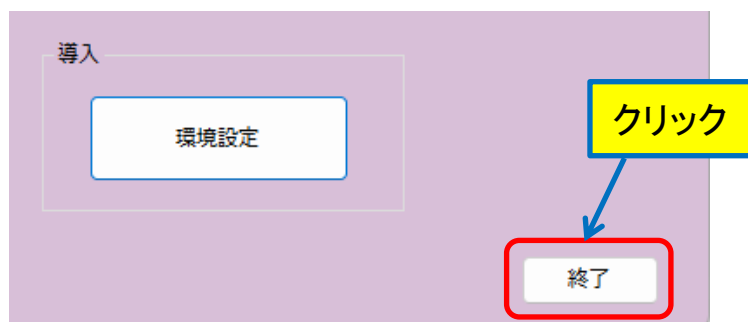
同様に、9 行目にはプロダクト ID: 00005-00005-00005、シリアル No.: 5555eeee があります。この認証キーもまだ認証登録がされていません。この認証キーは後述で行う、認証 UI ライブラリ (DLL) を利用したサンプルプロジェクトの実行で「フローティングライセンス」として使用開始を行います。

### 9. 認証状況▶「終了」



それでは、認証状況画面の右下の「終了」ボタンを押して、認証管理システムのメニューに戻ってください。

### 10. メニュー▶「終了」ボタン



続いて、認証管理システムのメニューの「終了」ボタンを押して認証管理システムを終了します。

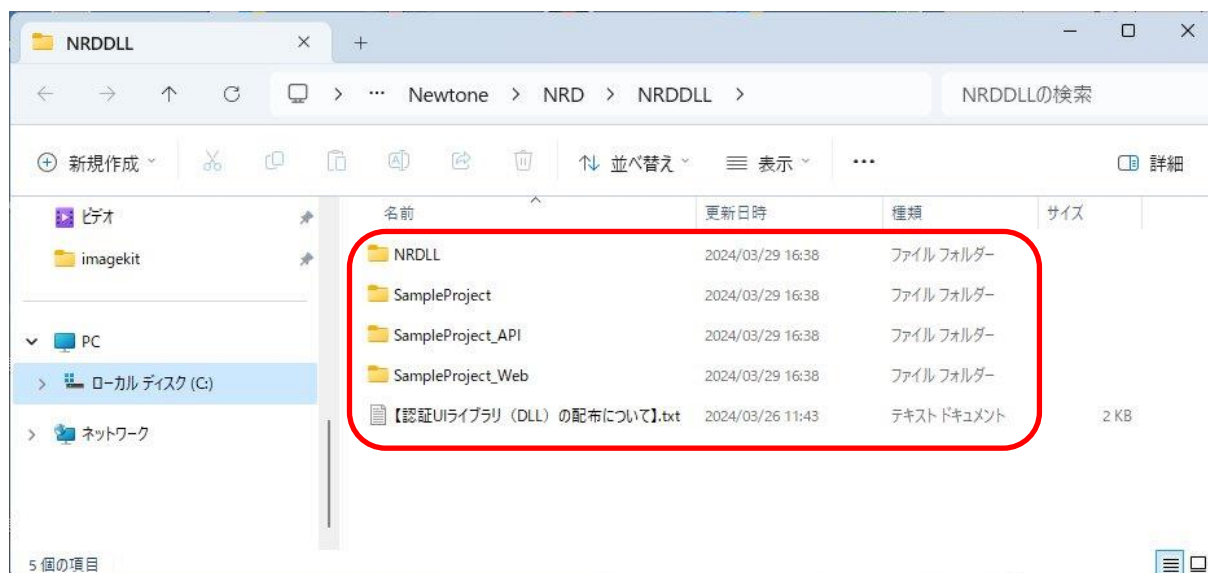
## ●認証 UI ライブラリのサンプルプロジェクトの実行

ダブルクリック



デスクトップ上の「認証レスキュー！.NET 認証管理システム」へのショートカットを起動すると次のフォルダがエクスプローラで表示されます。

このフォルダは、インストール先がデフォルトなら、  
 <32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NRD\NRDDL  
 <64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NRD\NRDDL  
 です。

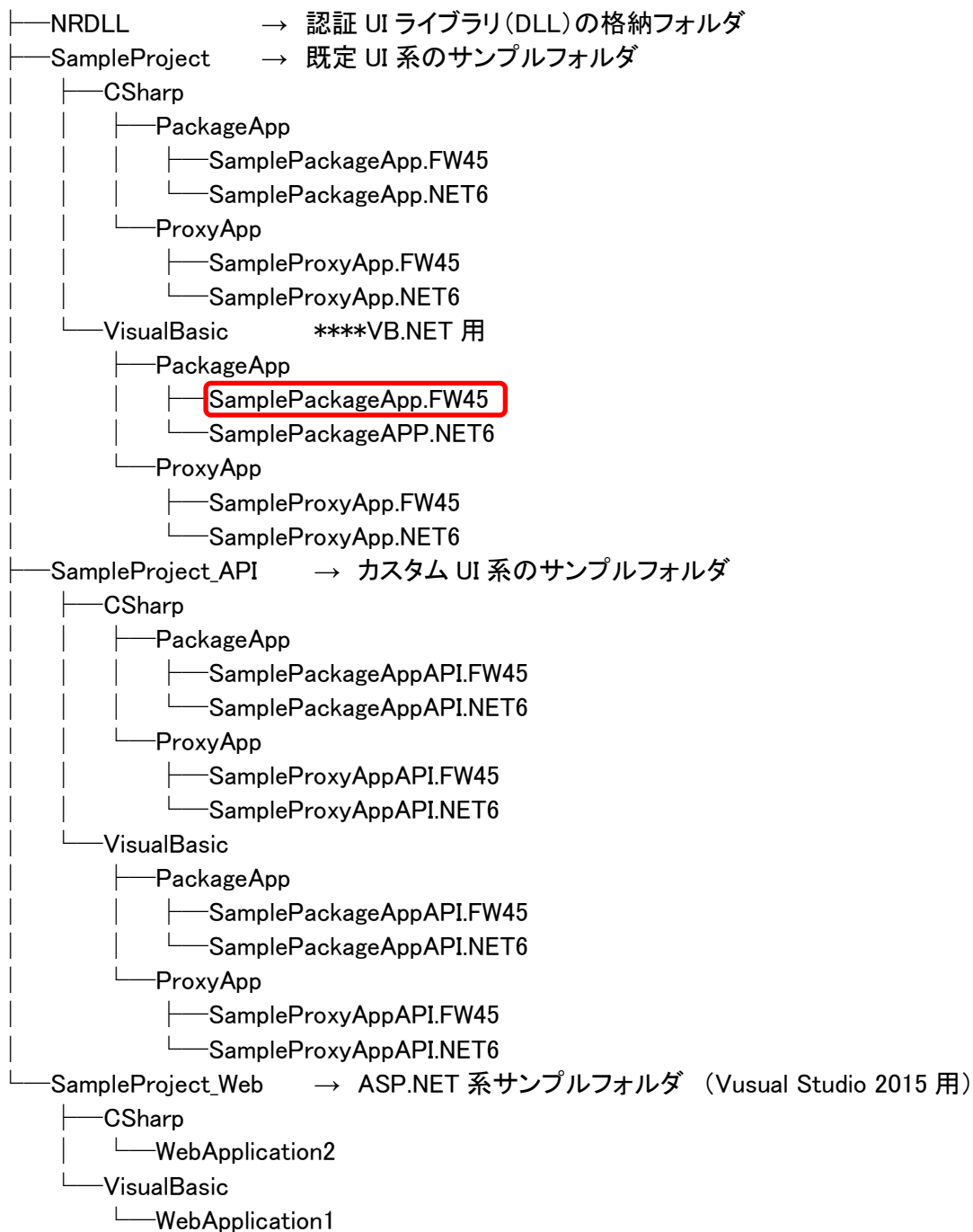


以下に具体的なフォルダを示します。

## 1.DLL 及びサンプルフォルダのツリー図

フォルダ名の凡例は次の通りです。

分類	凡例	説明
開発言語	CSharp	C#用
	VisualBasic	VB.NET用
サンプルプロジェクトの種類	PackageApp	下記「ProxyApp」を除いた認証機能のサンプルプロジェクト
	ProxyApp	代理認証のオフライン PC 側での操作のサンプルプロジェクト
フレームワーク	*.FW45	Framework 4.5 用 (Visual Studio 2015 用)
	*.NET6	.NET6 用 (Visual Studio 2022 用)



## 2. サンプルプロジェクトの実行

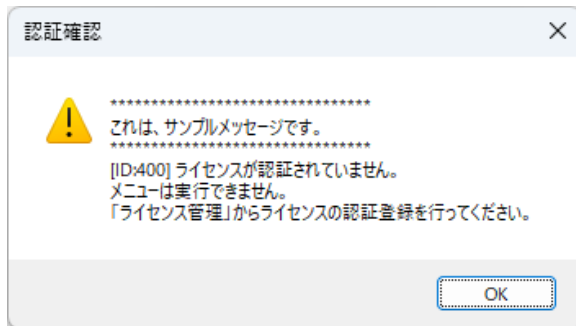
以下では、上図の中の

SampleProject→VisualBasic→PackageApp→SamplePackageApp.FW45

のサンプルプロジェクトを見ていきます。

同フォルダ内の SamplePackageApp.FW45.sln を Visual Studio で起動してください。

ソリューションが起動したら、プロジェクトは一つ (SamplePackageApp.FW45) ですのでそれを実行してください。



最初の起動時は、このダイアログが表示されます。これは、サンプルプロジェクトとしてまだ、ライセンス認証が済んでいないことをエンドユーザーに知らせるためのメッセージ例です。OK を押します。

このコードは、Private Sub Form1\_Load() のコードの最後にある、「CertificationStatus()」'認証状況の確認」の呼び出し先、Private Sub CertificationStatus() にあります。詳しくはコードをご覧ください。



次にこのフォームが表示されます。

このフォーム上の処理 1～処理 3 までのボタン(ダミー)は、まだライセンス認証が済んでいないためグレーアウトになっています。この処理をするコードも、先の Private Sub CertificationStatus() にあります。

ここでは「ライセンス管理」ボタンを押してください。

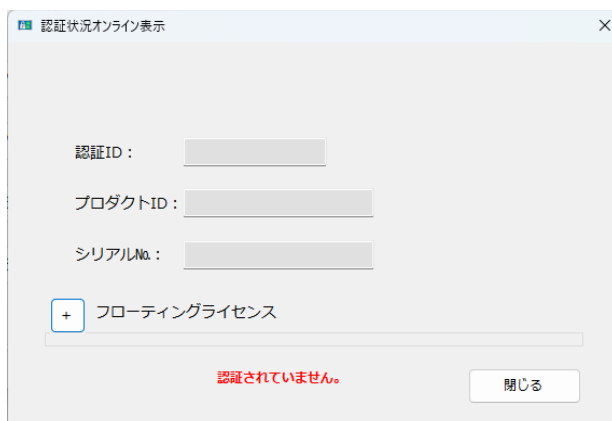
### 3.ライセンス管理のメニュー



このメニューが表示されます。認証機能の一覧が表示されています。以降では、枠線内の処理を見ていきます。

#### 4.「認証状況オンライン表示」

まず、現在の認証状態を確認します。メニューの「認証状況オンライン表示」ボタンを押します。



上の画面のようにこの PC は認証登録はされていません。「閉じる」ボタンを押してメニューに戻ります。



## 5. 「認証登録/インターネット」

次に、インターネット経由での PC 固定型の無期限ライセンスの認証登録を行います。メニューの「認証登録/インターネット」ボタンを押します。次の画面が表示されます。

この登録処理は、実際には貴社から提示されたライセンス情報をもとにエンドユーザが入力します。

ここでは、先の「[認証管理システム](#)」の[認証状況](#)で説明した際の、既存のサンプルデータを利用します。PC 固定型の無期限ライセンスとして、次を入力して、「登録」ボタンを押します。

プロダクト ID : 12345-12345-12345

シリアル No. : 1234ABCD (大小文字識別あり)

登録に成功すると、次のメッセージが表示されます。OK ボタンを押すとメニューに戻ります。

メニューの「認証状況オンライン表示」で確認するとライセンスが登録されていることが分かります。この「認証状況オンライン表示」は、実際にはエンドユーザが当処理を実行してリアルタイムで貴社のデータベースに接続し、確認された結果が表示されます。

## 6. 「認証解除/インターネット」

次に、認証登録を解除します。解除すると他の PC でこのライセンスを使用することができます。メニューの「認証解除/インターネット」ボタンを押します。次の画面が表示されます。

登録されているプロダクト ID とシリアル No.が自動的に表示されるので、「解除」ボタンを押します。次のメッセージが表示されます。OK ボタンを押します。

メニューの「認証状況オンライン表示」で確認すると、次のようにライセンスは解除され、登録されていません。

## 7. 「フローティングライセンス使用開始」

次にフローティングライセンスの使用開始を行います。

メニューの「フローティングライセンス使用開始」をクリックします。次の画面が表示されます。

フローティングライセンス使用開始

フローティングライセンスの使用を開始します。

00005-00005-00005

認証ID: 22380-12355

最初の使用開始です。  
最初の1回だけ、プロダクトIDとシリアルNo.を登録します。

プロダクトID: [ ]

シリアルNo.: [ ]

① 上記の「プロダクトID」と「シリアルNo.」を入力後に、下記の「使用開始」ボタンを押してください。  
また、プロキシサーバー経由でインターネット接続されている方は右側のプロキシサーバー情報を設定してから「使用開始」ボタンを押してください。

プロキシサーバーを使用する

アドレス: [5555eeee] (.xxx)

ユーザー名: [ ] (必要時)

使用開始

閉じる

クリック

ここでは、先の「[認証管理システム](#)」の[認証状況](#)で説明した際の、既存のサンプルデータを利用します。フローティング型の無期限ライセンスとして、次を入力して、「使用開始」ボタンを押します。

プロダクト ID: 00005-00005-00005

シリアル No.: 5555eeee (大小文字識別あり)

なお、この使用開始時にプロダクトIDとシリアルNo.を入力するのは初回だけで、次回以降はプロダクトIDとシリアルNo.は自動的に表示され、「使用開始」ボタンを押すだけになります。

使用開始に成功すると、次のメッセージが表示されます。OK ボタンを押すとメニューに戻ります。

フローティングライセンス使用開始

正常に開始できました。(2ライセンス目/10ライセンス中)

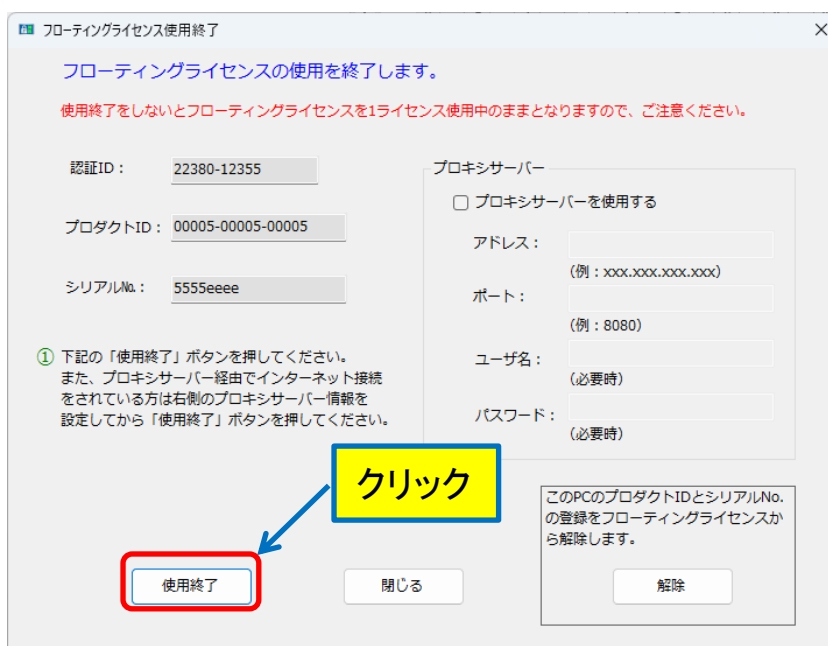
OK

メニューの「認証状況オンライン表示」で確認します。このフローティングライセンスの上限数はPC10台となっていて、現在、そのうちの1台分をこのPCで、他のPCで1台分を使用していることが分かります。

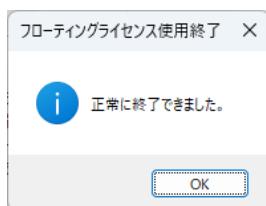


8. 「フローティングライセンス使用終了」

次にフローティングライセンスの使用終了を行います。  
メニューの「フローティングライセンス使用終了」をクリックします。次の画面が表示されます。



プロダクト ID とシリアル No.が自動的に表示されるので、「使用終了」ボタンを押します。  
次のメッセージが表示されます。OK ボタンを押します。



なお、「解除」ボタンは、フローティングライセンスからプロダクト ID とシリアル No.を解除する場合に使用します。ここでは、「閉じる」ボタンを押して、メニューに戻ります。

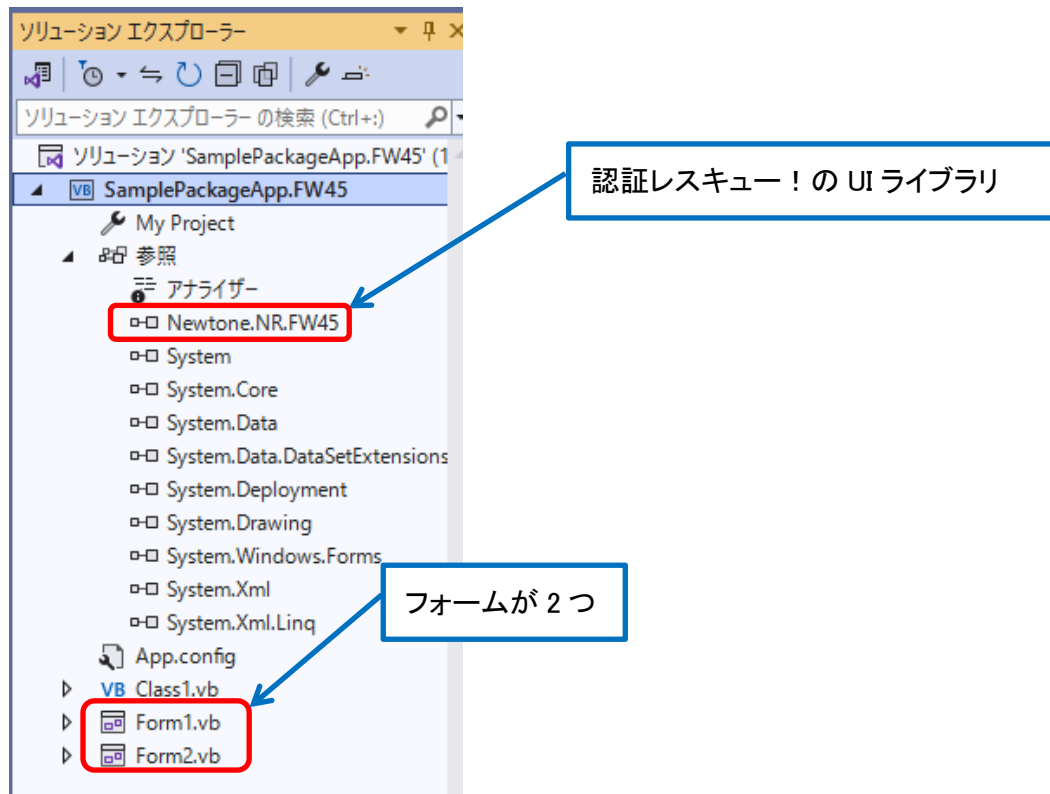
メニューの「認証状況オンライン表示」で確認します。  
このフローティングライセンスのプロダクト ID とシリアル No.はこの PC に登録されていますが、この PC は現在、このライセンスを使用していません。  
上限 PC 数 10 台中、他の PC1 台で現在使用されていることが分かります。



ここまでで、サンプルプロジェクトの実行の確認は終わります。実行を終了してください。

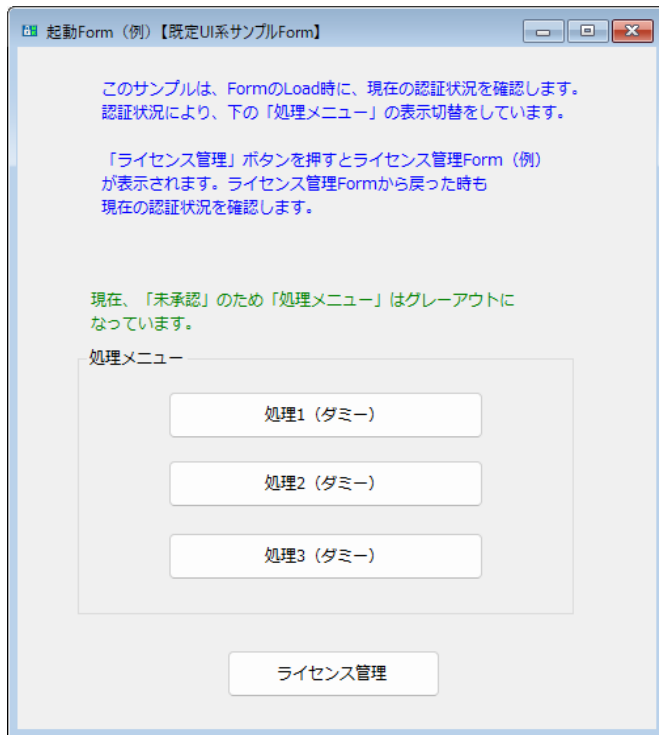
## ● サンプルプロジェクトと Form のデザインとコード

このサンプルプロジェクトは、ソリューションエクスプローラーでは次のように表示されます。



「参照」には、認証レスキュー！の UI ライブラリ (Newtonone.NR.FW45.dll) への参照があります。また、プロジェクト内には 2 つのフォームがあります。簡単に見ていきます。

## 1.Form1



Form1 のコードでは、フォーム起動時に次のように、認証レスキュー！の DLL に対し、各プロパティを設定しています。また、認証状況の確認プロシージャ、CertificationStatus()を呼び出しています。

```
Private Sub Form1_Load(sender As System.Object, e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load
```

```

'-----
' Newton. NR. FW45. dll のプロパティの設定
' 【重要】 DLL の以下のプロパティは必ず適切なものを設定してください。
'-----

' ベンダ製品スタート開始レジストリキーパス（※最終的には必ず貴社のものに変更してください）
Class1.myActivate.VendorsProductStartRegistryKeyPath =
    "Software¥Newtone¥NinshoRescue¥NRD¥SampleProject"
' 電話で認証時の電話番号（※最終的には必ず貴社のものに変更してください）
Class1.myActivate.TelephoneNumber = "012-345-6789"
' 暗号化時のパスワード（※最終的には必ず貴社のものに変更してください）
Class1.myActivate.EncryptionPassword = "12345678ABCDEFGH"
' 暗号化時のSalt文字列(8バイト以上)（※最終的には必ず貴社のものに変更してください）
Class1.myActivate.EncryptionSaltString = "認証レスキュー！"
    .
    .
    .
    .
    CertificationStatus() ' 認証状況の確認

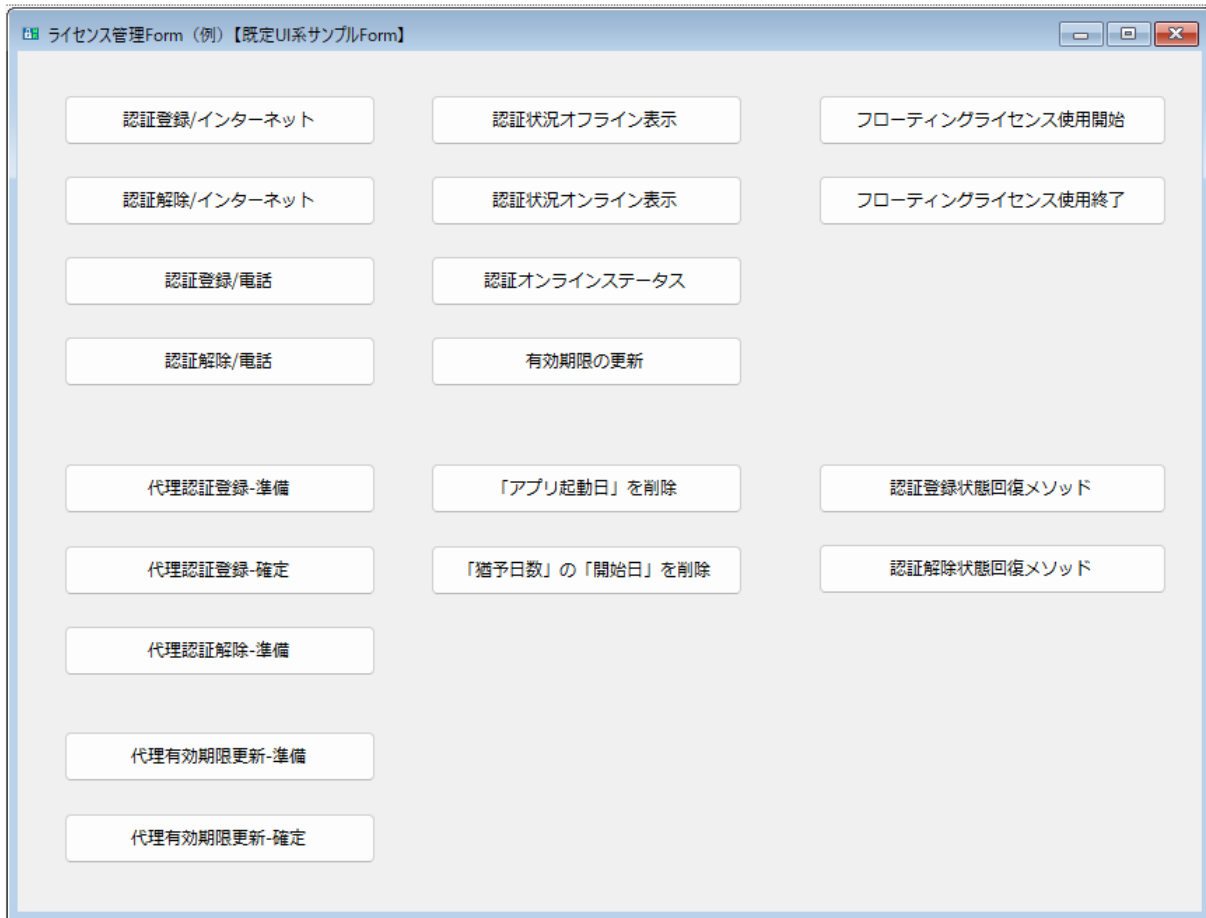
```

```
End Sub
```

詳しくは、プロジェクトソースをご覧ください。



## 2.Form2



Form2 では、認証に関する各機能を Button のコードに割り当てています。  
このサンプルプロジェクトは既定 UI 系なので、Button\_Click には、ほぼ1対1で、認証レスキュー！  
の DLL のメソッドが記述されています。

```
Private Sub Button2_Click(sender As System.Object, e As System.EventArgs) Handles Button2.Click
```

```
    ' 認証登録/インターネット
    If Class1.myActivate.ActivateRegisterInternet() = False Then
        MessageBox.Show("エラー")
    End If
```

```
End Sub
```

```
·
·
```

DLL のメソッド

詳しくは、プロジェクトソースをご覧ください。

## 「認証レスキュー！.NET」クイック体験ガイド（3.0.0）

2024年4月10日 初版発行

**NEWTONE**  
株式会社ニュートン

著者 株式会社ニュートン  
発行所 株式会社ニュートン  
新潟県長岡市本町 2-2-15 シャングリラ本町 1F  
[www.newtone.co.jp](http://www.newtone.co.jp)

Copyright © Newtone Corporation

本書は、法律に定めのある場合または権利者の承諾のある場合を除いて、いかなる方法においても複製・複写することはできません。